

まだまだ続く、いつまで続く

園 長 小 島 澄 人

半袖がまだ必要です。暑さが6月からまだまだ続く、日よけテントが必要です。昨年2つのテントを購入しましたが、今年はますます暑くなりました。外での活動を控えたり、時間を短くしたりと。けど、子どもたちは無邪気に外で遊びます。心配で見回ると、次々に寄ってきます。夏前のことですが、子どもたちが次々にカブトムシを、クワガタを見せに来ます。不思議に思い、「どこにいたの」、すると園庭の木々にいるんだと。びっくりです、いままでは裏山か、自然探検村からとってきたと誇らしげに見せてくれましたが、今年は園庭にまで……。

夏季保育中に、今年も朝5時から2時間、ブドウを収穫しましたが、豊作でした。ある日、大きなざるいっぱいに入れて、職員室前に置きましたが、子どもたちが本当に美味しく食べています。あの2時間が、大変だった暑さも吹っ飛びます。9月になって、職員室にやってきた男の子が、あのブドウを食べたいと、泣きながら訴えに来ました。「ごめんね、もうないの」と、諭しても無理なほどでした。何気なく毎年やっていた、「ブドウのさしいれ」、これからも頑張るだけです。ちっちゃな小粒のブドウ、巨峰やシャインマスカットではないが、こんなに喜んでいたとは思わず、びっくりです。近くには巨峰の苗も2本、同じ時期に植えましたが、あまり育っていません。しばらくして、ベテランの男性教師が私のところに来て、その苗の周りを掘って腐葉土や土を入れ替えたらと、提案してくれました。早速、やってもらいましたが、大きくなるのが楽しみになりました。

実は今年、初めて「線状降水帯」を経験いたしました。本当に怖いし、裏の崖が崩れるのではと、心配しました。この夏、長崎に帰り、初体験でした。2日、3日と続き、雨の里帰りでしたが、幼い頃を思い出しました。

幼稚園時代、父親に連れられて、海岸に行き、海から流れ着いたゴミを拾っていました。東シナ海に面した故郷の海は本当にきれいでしたが、嵐の後はゴミが流れ着きました。それを一つ一つ拾うごとに、一つ一つ無くなるのが楽しかったことを思い出しました。父は、誰かが拾わないと地球がゴミだらけになる、と教えてくれました。妹に聞くと、今では漁師さんたちが、漁業協同組合に頼まれて、仕事がない日にみんなで、船に乗って、降りては拾い、また拾って、海をきれいに保っているとか、だからまだきれいな海があるのだと。家々は廃屋だったり、空き家があちこちにありますが、まだ故郷は美しい故郷でした。いつ帰れるかわかりませんが、あの透き通った海、山々を残してほしい。

10月、運動会です。練習はホールで行うこともたくさんありましたが、子どもたちは日に日にたくましく、素敵に見えてきました。大きくなりました。運動会が楽しみです。運動会に間に合うように、あと日よけテント、4本購入します。少しでも日影が欲しい。